

仮に学問というものを理系と文系との二つに大きく分けるとします。すると、グローバル経済社会、高度情報化社会などと呼ばれる現代社会において、「役に立つ」学問として重要なのは理系の学問であるという意見が出てきます。報道によれば、国立大学などではいわゆる「文系」学部の再編や縮小が行われつつあります。本当に文系の学問は、現代社会において理系の学問ほど重要ではないのでしょうか。

添付した資料は、吉見俊哉『「文系学部廃止」の衝撃』の一部です。この資料を読んで以下の問題に答えなさい。

なお解答は、上部に問1、問2と記された別紙の解答用紙に書くこと。

問1 「役に立つ」とはどういうことか、についての筆者の考えを、文中の「二つの次元」という表現に留意して、200字以内でまとめなさい。(配点 40 点)

問2 文系の学問や知にはどのような特徴があり、それを学ぶことにはどのような意義があると言えるかについて、筆者の意見も参考にしながら、あなたの考えを800字以内で述べなさい。(配点 60 点)

資料出典

吉見俊哉『「文系学部廃止」の衝撃』集英社新書(2016.2) pp.67-75 (一部略)